

令和元年度 決算について

協会けんぽ（医療分）の令和元年度 決算見込み

(億円)

【収入に影響する指標の推移】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
被保険者数 (万人)	2,137	2,212	2,300	2,361	2,465
前年比 (%)	+3.2	+3.5	+3.9	+2.7	+4.4
平均標準報酬月 (円)	280,327	283,351	285,059	288,475	290,592
前年比 (%)	+0.9	+1.1	+0.6	+1.2	+0.7

【支出に影響する指標の推移】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
加入者数 (万人)	3,681	3,764	3,860	3,920	4,026
前年比 (%)	+2.2	+2.3	+2.5	+1.6	+2.7
1人当たり保険給付費 (円)	146,549	148,064	150,544	153,091	158,136
前年比 (%)	+4.1	+1.0	+1.7	+1.7	+3.3

【解説】

収入は、10兆8,697億円で前年度比5,235億円の増加(+5.1%)となった。

※保険料収入が4,510億円増加した理由は、被保険者数が増加(+4.4%)したこと、賃金が増加(+0.7%)したことが要因。+4.4%のうち、+2.1%は大規模健康保険組合（人材派遣健康保険組合等）の解散による影響。

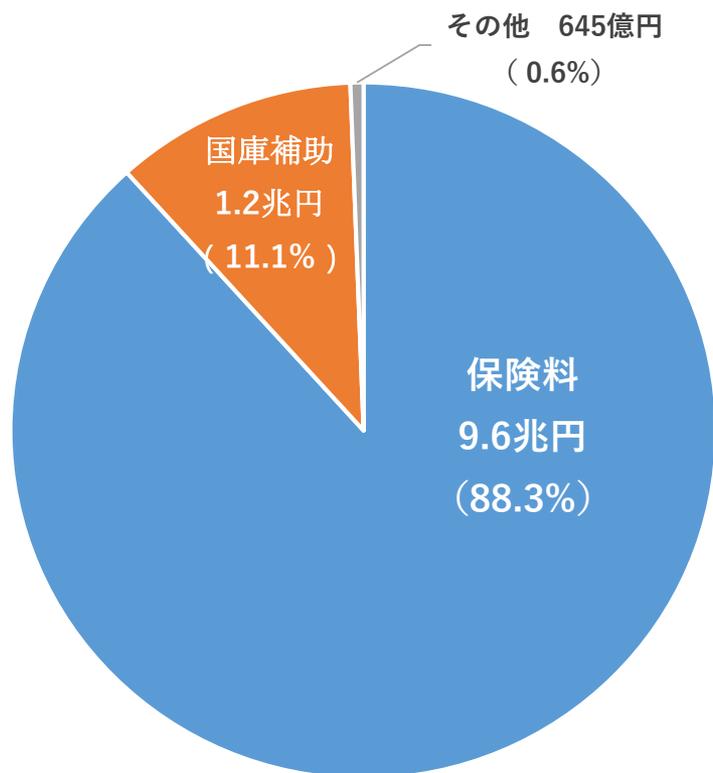
支出は、10兆3,298億円で前年度比5,785億円の増加(+5.9%)となった。

※保険給付費が3,653億円増加した理由は、一人当たり保険給付費が増加(+3.3%)したこと、解散組合（人材派遣健康保険組合等）の影響により、加入者の伸びが大幅に増加(+2.7%)したことが要因
また、拠出金が1,254億円増加(+3.6%)した理由は、高齢者医療費の伸びにより後期高齢者支援金が増加したことが要因

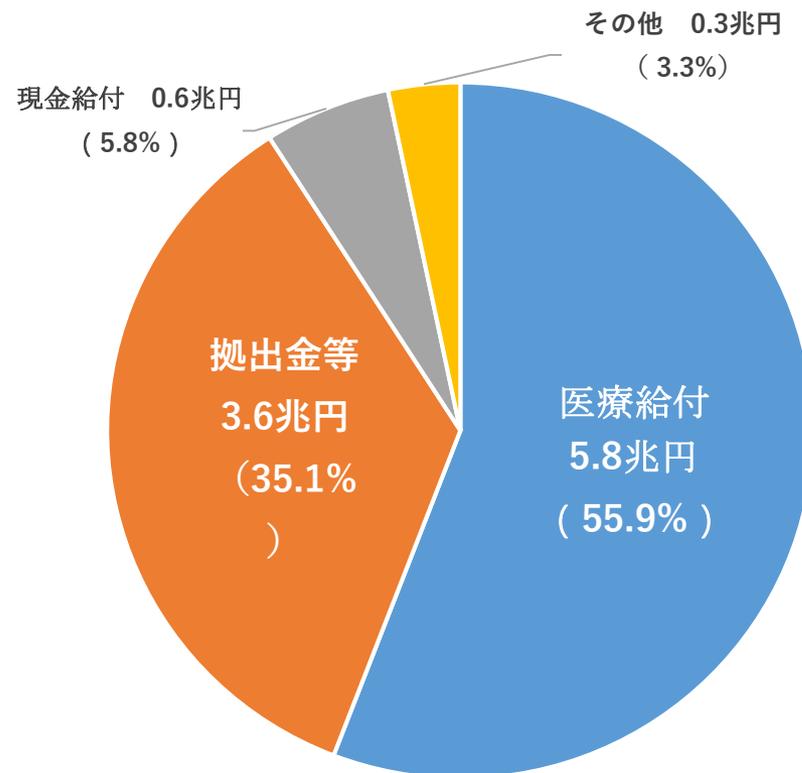
収支差は、5,399億円となり、前年度比は550億円の減少となった。

	項目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
収入	保険料収入 (伸び率%)	80,461 (4.0)	84,142 (4.6)	87,974 (4.6)	91,429 (3.9)	95,939 (4.9)
	国庫補助等	11,815	11,897	11,343	11,850	12,113
	その他	142	181	167	182	645
	収入計 (伸び率%)	92,418 (1.5)	96,220 (4.1)	99,485 (3.4)	103,461 (4.0)	108,697 (5.1)
支出	保険給付費	53,961 (6.3)	55,751 (3.3)	58,117 (4.2)	60,016 (3.3)	63,668 (6.1)
	医療給付費	48,761	50,401	52,652	54,433	57,693
	現金給付費	5,199	5,350	5,464	5,583	5,975
	拠出金等 (伸び率%)	34,172 (▲2.0)	33,678 (▲1.4)	34,913 (3.7)	34,992 (0.2)	36,246 (3.6)
	前期高齢者納付金	14,793	14,885	15,495	15,268	15,246
	後期高齢者支援金	17,719	17,699	18,352	19,516	20,999
	退職者給付拠出金	1,660	1,093	1,066	208	2
	その他	1,832	1,805	1,969	2,505	3,383
	支出計 (伸び率%)	89,965 (3.0)	91,233 (1.4)	94,998 (4.1)	97,513 (2.6)	103,298 (5.9)
	収支差 (単年度)	2,453	4,987	4,486	5,948	5,399
準備金残高 (累計)	13,100	18,086	22,573	28,521	33,920	

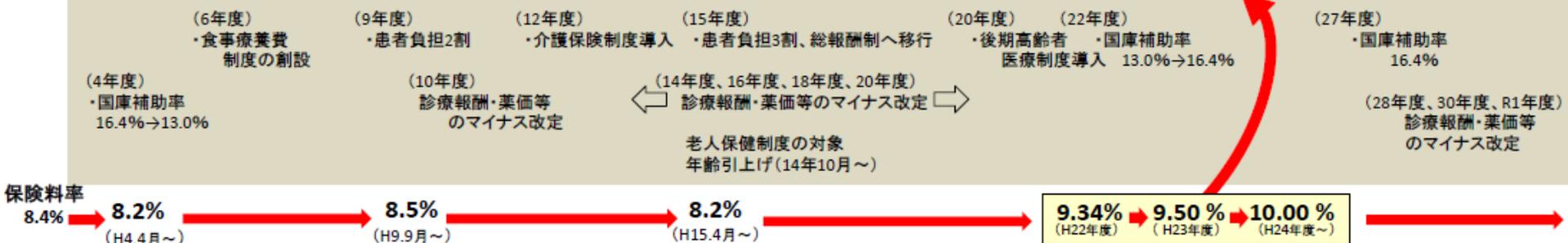
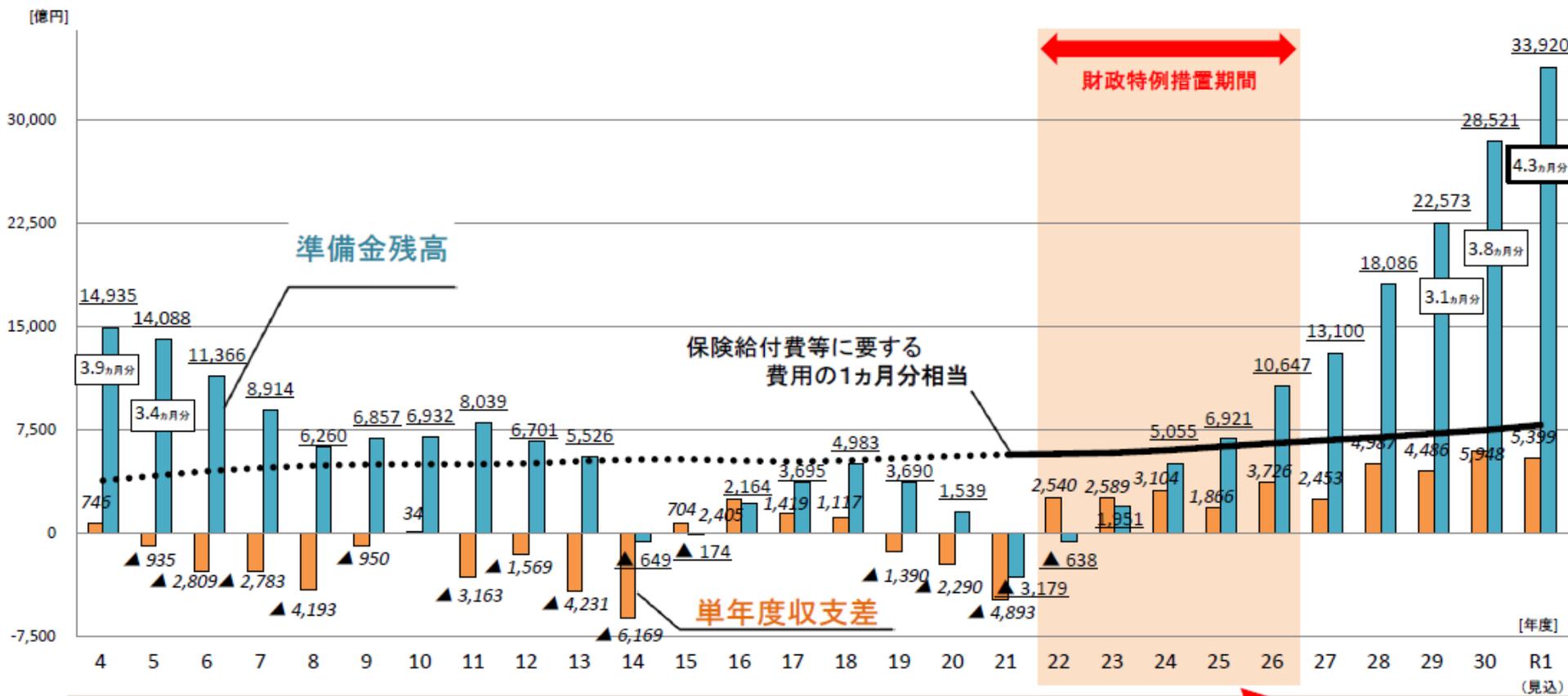
収入 10兆8,697億円



支出 10兆3,298億円

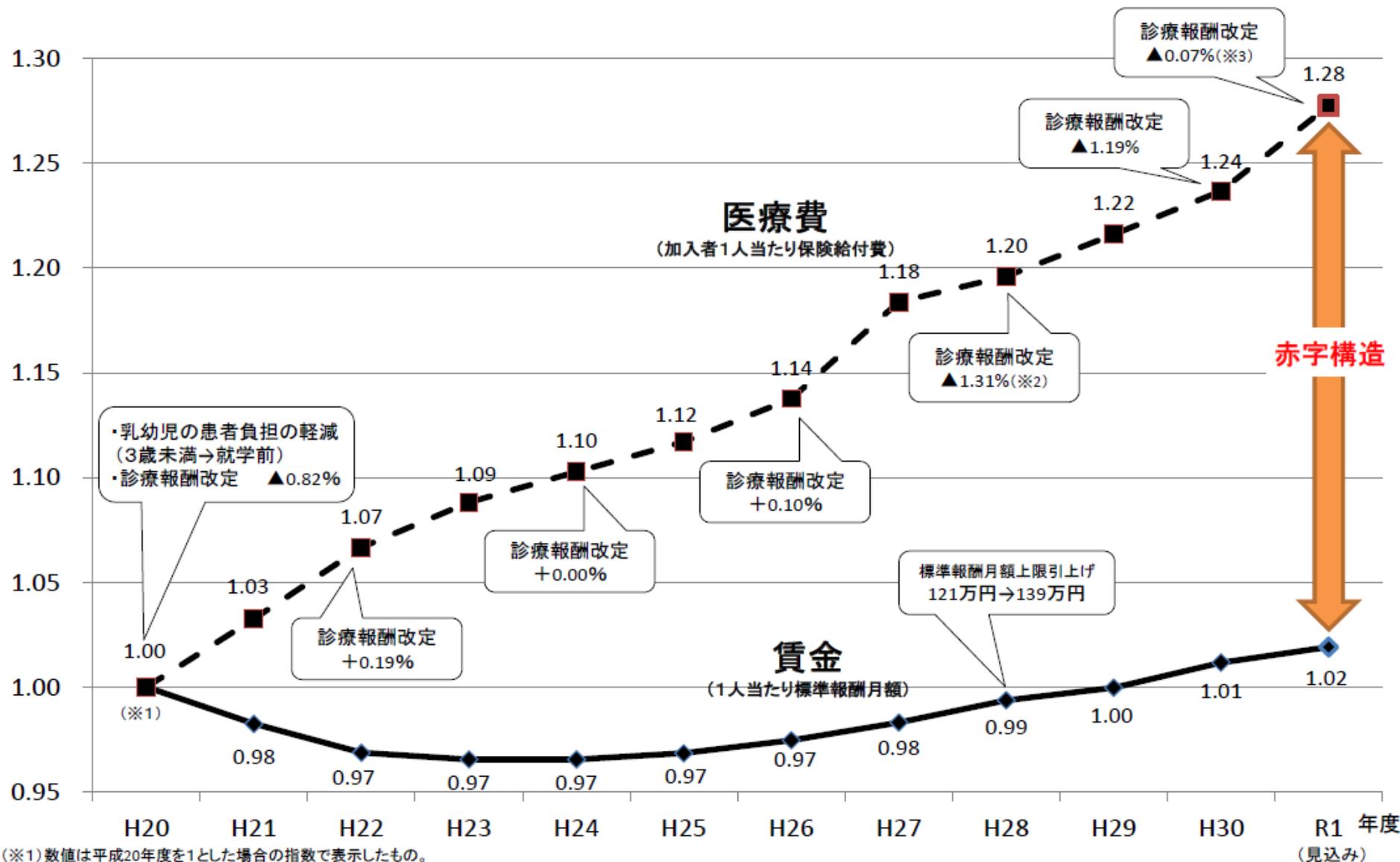


単年度収支差と準備金残高の推移（協会会計と国の特別会計との合算ベース）



(注) 1. 平成8年度、9年度、11年度、13年度は国の一般会計より過去の国庫補助繰延分の返済があり、これを単年度収支に計上せず準備金残高に計上している。
 2. 平成21年度以前は国庫補助の清算金等があった場合には、これを単年度収支に計上せず準備金残高に計上している。
 3. 協会けんぽは、各年度末において保険給付費や高齢者提出金等の支払いに必要な額の1ヵ月分を準備金(法定準備金)として積み立てなければならないとされている(健康保険法160条の2)。

●近年、医療費(1人当たり保険給付費)の伸びが賃金(1人当たり標準報酬)の伸びを上回り、協会けんぽの保険財政は赤字構造

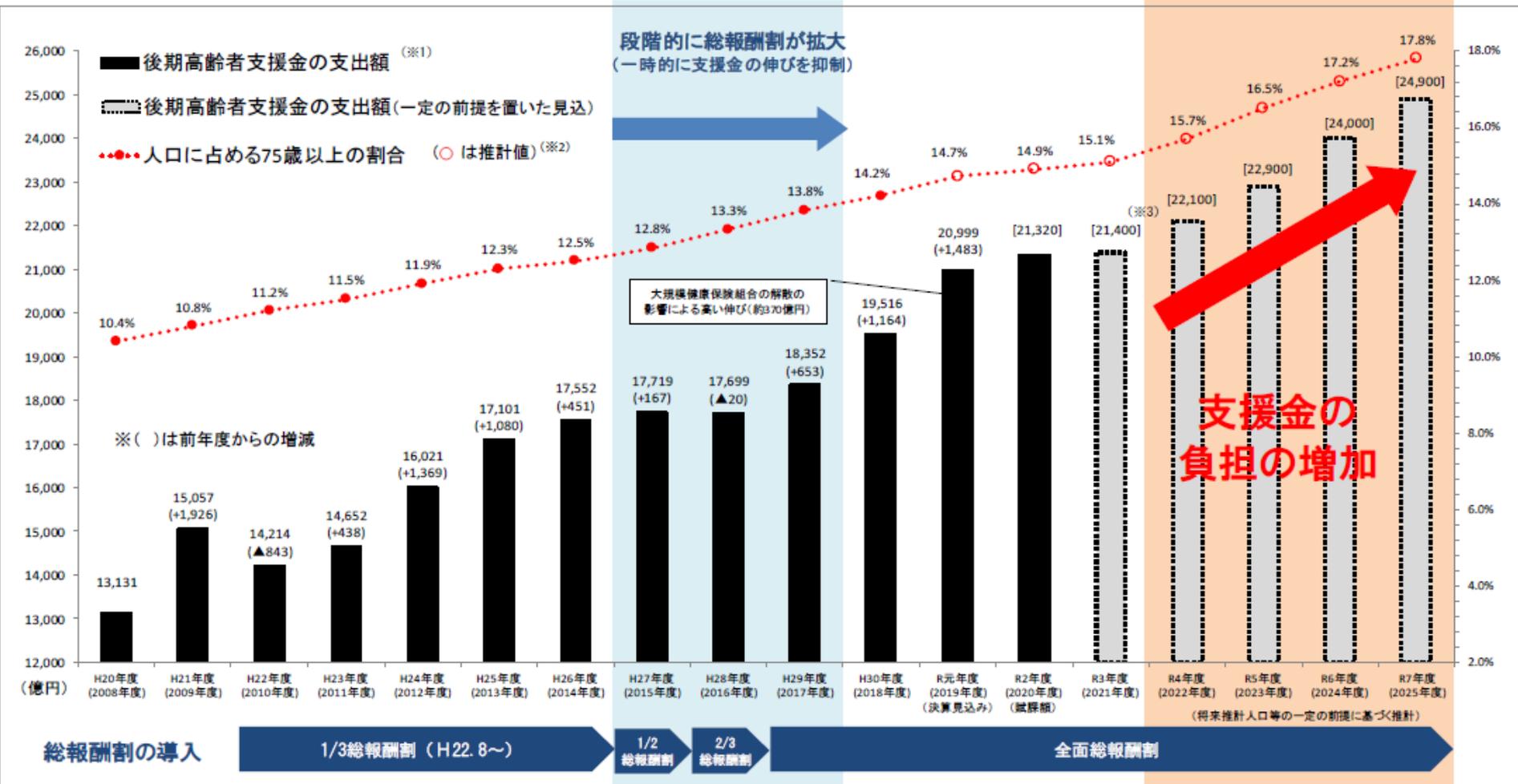


(※1) 数値は平成20年度を1とした場合の指数で表示したものです。

(※2) ▲1.31%は、28年度の改定率▲0.84%に業種の市場拡大再算定の特例の実施等も含めた実質的な改定率である。

(※3) 消費税率10%への引き上げに伴い令和元年10月より改定。

●近年、後期高齢者支援金は、総報酬割の拡大により一時的に伸びが抑制されていたが、今後は大幅な増加が見込まれている。



(※1) 後期高齢者支援金については、当該年度の支出額（当該年度の概算分と2年度前の精算分、事務費の合計額）である。
 (※2) 人口に占める75歳以上の割合については、H30年度以前の実績は「高齢社会白書」（内閣府）、R元年度以降の推計値は「日本の将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所、H29年推計）による。
 (※3) R3年度以降の推計値は、百億円丸めまで記載している。

令和元年度福井支部の決算見込み（国庫補助除く）

(百万円/%)

	項目	福井支部			全国計		
		当初計画	実績	当初比	当初計画	実績	当初比
収入	保険料収入	73,832	69,359	93.9	9,657,157	9,593,872	99.3
	その他	451	398	88.2	59,859	53,704	89.7
	収入計	72,283	69,756	96.6	9,717,016	9,647,576	99.3
支出	医療給付費	36,994	36,620	99.0	5,000,881	5,033,228	100.6
	現金給付費等	3,359	3,222	95.9	446,255	440,451	98.7
	前期高齢者納付金等	25,668	25,016	97.5	3,410,455	3,419,592	100.3
	業務経費	1,152	996	86.5	153,024	136,178	89.0
	一般管理費	401	318	79.3	53,219	43,441	81.6
	その他支出	1,010	255	25.2	134,153	34,806	25.9
	前々年度収支差の精算	▲206	▲206	100	-	-	-
	支出計	68,377	66,220	96.8	9,197,987	9,107,696	99.0
収支差	収支差(決算)	3,906	3,536	90.5	519,029	539,880	104.0
	収支差(全国平均分)	3,906	3,949	101.1	519,029	539,880	104.0
	地域差分	-	▲413		-	-	

【全国平均分】
 全国計の収支差から福井支部の総報酬按分率（0.73%）を乗じる

$$539,880 \text{百万円} \times 0.73\% = 3,949 \text{百万円}$$

(端数処理のため、計数が整合しない)

【地域差分】
 収支差（決算） - 収支差（全国平均分） = 地域差分

$$3,536 \text{百万円} - 3,949 \text{百万円} = \blacktriangle 413 \text{百万円}$$

福井支部収支差の保険料率換算について
 (※保険料率換算は元年度の総報酬額の実績に基づく参考値)

地域差分 (I)	総報酬額 (元年度実績) (II)	保険料率換算 (I/II × 100)
▲413百万円	701,883百万円	▲0.06%

令和3年度保険料率算定は、令和3年度の総報酬額の見込額で換算
 0.06%が料率に加算